

地域別配慮指針一覧表

	地域特性
	自然環境(地形・景観)
長崎・西彼地域	<p>長崎半島(野母半島)と西彼半島及びその周辺の島々より構成される地域で、長崎半島は五島灘と橘湾に、西彼半島は五島灘と大村湾に面する。砂浜海岸や急峻な海蝕崖等の変化に富んだ海岸線が見られ、陸域においては標高300～500mの丘陵が連なり、各所に結晶片岩や蛇紋岩あるいは安山岩や石灰質砂岩等、異なる地質が露出している。</p> <p>西彼半島の中央部は雲や霧が発生しやすいこともあって、久良木湿原等各所に規模は小さいものの湿原が形成されている。一帯は起伏が多く、海岸線も複雑で、角力灘の海に浮かぶ島々と周囲の山並みとが一体となって美しい景観を形成している。</p> <p>このような特異な景観を持つ海岸や良好な自然が残る丘陵地は、県立自然公園に指定されている。</p>
県央地域	<p>我が国を代表する内湾、大村湾と有明海とに挟まれた経ヶ岳、多良岳、五家原岳等1,000m級の山々が連なる多良山系と、その山裾に広がる長崎県最大の平野である諫早平野や諫早湾、大村湾等で構成される地域である。</p> <p>多良山系一帯は昭和26年に本県最初の県立自然公園に指定されており、多良山系の山々とともに、千綿渓谷や轟渓谷も地域の自然景観の特徴である。</p>
島原地域	<p>島原半島は北側を諫早湾、東側を有明海、南側を橘湾により三方を海で囲まれ、半島中央部には我が国でもっとも新しい火山“平成新山”をはじめ、普賢岳、妙見岳、国見岳、九千部岳等1,000mを超える峰々が連なる雲仙火山が屹立している。また、雲仙の温泉地帯では、今なお高温の温泉水の湧出や噴気活動が盛んである。</p> <p>このような火山活動によって成立した山岳景観、火山現象、それに豊かな植物相が独特の美しい自然景観を構成していることから、昭和9年に雲仙山系一帯が我が国第1号の国立公園に指定されている。また、雲仙、小浜、島原の温泉群、島原の湧水群も県内では他に見られない特徴と言える。</p>
県北地域	<p>県本土の北部地域と平戸島・生島、福島・鷹島等の島嶼部で構成される地域で、平戸島を中心に火山岩類の露岩が多く見られるとともに、第三紀層も広く分布している。</p> <p>九十九島やイロハ島等、海面の上昇や地盤の沈降等によって生じた美しい多島海景観が、この地域の特徴であり、西海国立公園、玄海国立公園等に指定されている。</p>
五島地域	<p>北は佐世保市の宇久島、南は五島市の男女群島まで、東シナ海に浮かぶ島々からなる地域である。</p> <p>男女群島や福江島の大瀬崎等には荒々しい海蝕崖が発達し、福江島や中通島、小値賀島、宇久島等には様々な火山地形が見られるほか、長崎県を代表する美しい砂浜等の自然海岸が広がっており、これらの地域の多くは西海国立公園や長崎県自然環境保全地域等に指定されている。また、これらの自然景観にとけ込むように、木造や石造、煉瓦造等の教会が入江ごとに建てられ、美しい文化的な景観を形づくっている。</p>
壱岐地域	<p>壱岐島の大部分に玄武岩溶岩台地が広がり、全体として非常になだらかな地形を有し、海拔100mを超える山地は僅かである。島の中央部を幡鉾川が流れ、下流域には島内最大の平野が発達している。そのため、この地には古くから人が住みはじめ、弥生時代には環濠集落が発達し、原の辻遺跡として残っている。</p> <p>海岸は、北部と南部には大規模な海蝕崖が発達するが、東部には筒城浜、大浜、錦浜等の美しい砂浜が広がっている。これらの砂浜は貝殻を起源とする貝殻砂が大半を占めている。</p> <p>本地域の美しい白砂の海浜や奇岩を有する海岸景観は壱岐対馬国立公園に指定されている。</p>
対馬地域	<p>南北に延びる対馬は、県下第一、全国的には沖縄・佐渡・奄美大島に次ぐ4番目(北方領土を除く)の広さの島で、その多くが対州層群と呼ばれる堆積岩で構成され、浸食作用により起伏が激しく平地は僅かで、浅茅湾をはじめ海岸線は複雑繊細である。</p> <p>本地域の荒々しい海蝕崖や溺れ谷による樹枝状の海岸線と多島海の景観、全国屈指の原生的な照葉樹林や起伏の激しい山岳景観等が壱岐対馬国立公園に指定されている。</p> <p>対馬は、歴史的に大陸との人的・物的交流の拠点として栄え、また、豊かな漁場に囲まれて、中国地方や関西、関東方面からも魚やクジラを求めて多くの漁業者が集まり、中には新たに村を作るなどして定住した人も少なくない。現在では、アクセスの良さから福岡方面からの訪問者も多く、近年、韓国から登山客を含む観光客が増加傾向にあり、また、浅茅湾の地形等を活かしたシーカヤックによるエコツーリズムも盛んになりつつある。</p>

	地域特性
	自然環境(植物)
長崎・西彼地域	<p>本地域は非常に変化に富んだ特殊な環境を有し、それぞれの環境に適応した珍しい植物の生育が確認されている。西彼杵半島中央部の湿原には世界で唯一の産地となるイグサの仲間のヒゼンコウガイゼキショウ、美しい花を咲かせるサギソウ等の湿原性の植物が、また、西海市西部の石灰質砂岩上には我が国で唯一の産地となるナナツガマンネグサが生育する。</p> <p>このほか、長崎半島のヒメノボタン、野母崎海岸のハマビシは長崎県内では唯一生育が確認されており、長崎市内の森林で見られるナガサキギボウシは本県の固有種である。</p>
県央地域	<p>佐賀県との県境にそびえる多良山系は、長崎県でも最も植物相が豊かな地域の一つである。早くから牧野富太郎をはじめとする多くの植物研究者によって調査が進められ、オオキツネノカミソリ、カンザシギボウシ等はこの多良岳で初めて発見されたもので、カツラ、ヤマシャクヤク、マンサク、センダイソウ等は本県では多良山系のみで生育する。</p> <p>多良山系のブナ林は我が国最西端に位置する。多良山系には一年を通して登山客が訪れており、春のマンサク、初夏のツクシヤクナゲ、夏のオオキツネノカミソリは、「多良の三名花」と呼ばれ、開花期には、県内外から植物愛好家が観察に訪れる。</p> <p>多良山麓には野焼きによって維持されている草原があり、リンドウ、オミナエシ、ノヒメユリ等の草原性の植物を観察することができる。このほか、大村湾沿岸には日本のハイビスカスと呼ばれ、夏、黄色の美しい花を咲かせるハマボウが多く生育する。</p>
島原地域	<p>雲仙に生育するツツジの仲間のミヤマキリシマは、地元では「雲仙ツツジ」とも呼ばれ、江戸時代から保護されており、仁田峠、池ノ原、宝原などに大きな群落が残されている。このほか、雲仙では噴気地帯のシロドウダン、山肌を白く染め上げるヤマボウシの群落も全国に誇れる地域資源である。</p> <p>また、雲仙は早くから調査が進められたこともあり、ウンゼンカンアオイ、ウンゼンマンネグサ、ウンゼンザサ等、雲仙で発見され、雲仙の名を冠する植物も少なくない。</p> <p>噴気地帯に生育するツクシテンツキや、原生沼のカキツバタ等の湿原性植物、発見された地の島原を名に付すシマバライチゴ、冷温帯植物のブナやナナカマド等も、この地域を代表する植物である。</p>
県北地域	<p>平戸のイトラッキョウ、シジキカンアオイ、シマシャジン、それに九十九島のトコイ島に生育するトビカズラ等、世界で唯一の生育、又は国内でも極めて限定的に生育している植物が確認されている。シーボルトによって欧州に紹介され、カサブランカの母種の一つとなったカノコユリが、九十九島の島々に生育する。</p>
五島地域	<p>植物では、対馬暖流の影響を受け、ヘゴ、ピロウ、ハマジンチョウ、ハマトラノオ等南方系の植物が生育する。福江島だけに生育し、その名を冠するフクエジマカンアオイはこの地域の固有種である。男女群島だけに生育するトウカンソウは、今日世界各地で園芸種として栽培されているヘメロカリスの母種の一つとされている。</p> <p>大きな河川がないため、各地に灌漑用の溜池が造られ、スイレンと同じ浮葉植物であるオグラコウホネや五島列島が北限となるタヌキアヤメ等の希少植物をはじめ特有の水生物が見られる。</p>
壱岐地域	<p>壱岐は、地形がなだらかなこともあって、原の辻遺跡等が示すように、古くから広い範囲で人の手が加わっており、植物相はそれほど豊かではない。しかし、壱岐北部の辰ノ島や名島島等に分布するハイビヤクシンやキキョウ、壱岐各地の海岸で見られるハマベノギク、ダルマギク、コウボウムギ等の海浜植物の生育が知られている。</p>
対馬地域	<p>対馬は、洲藻白岳原始林や龍良山原始林に代表されるように、奥山には自然林が残り、各所に特徴ある植物群落が形成されている。</p> <p>アジア大陸との地理的・地史的関係が深いため、チョウセンヤマツツジをはじめハクウンキスゲやヒゴタイ等、大陸系の植物が数多く生育する。対馬暖流の影響により、対馬の北部でもハマボウの群落が河口付近に生育する一方で、エゾオオバコ、ナミキソウ、スナビキソウ、ハマニンニク等の北からの海流の影響と思われる北方系の植物も分布する。ツシマギボウシやシマトウヒレン等、対馬の固有種が生育する。</p>

	地域特性
	自然環境(動物)
長崎・西彼地域	<p>大型哺乳類では長崎市八郎岳周辺のキュウシュウジカ、西彼杵半島を中心とするイノシシが古くから生息する。西海市の海岸はアカウミガメの産卵やカブトガニの繁殖でも知られているが、近年長崎市の海岸においてもアカウミガメの産卵が確認されている。</p> <p>このほか、西彼杵半島中央部の湿原には我が国最小のトンボ ハッチョウトンボ、西彼杵半島の干潟にはハクセンシオマネキ、西海市西海町にある七釜鍾乳洞にはここで初めて発見され命名されたナナツガマジンツボやナナツガマホラアナミジンナといった洞窟性の巻貝等も生息している。</p>
県央地域	<p>哺乳類では、多良山系に国の天然記念物に指定されているヤマネが生息する。</p> <p>鳥類では、かつて諫早湾の湾奥部の干潟に生息していたムツゴロウやハクセンシオマネキ等を餌とするシギ、チドリ等の渡り鳥が飛来していた。干拓工事によりその湾奥部の干潟の大半が失われたが、その跡には調整池とそれを取り囲むヨシ原が出現し、スズガモをはじめとするカモ類、タカの仲間のハヤブサやチュウビ、それにマナヅル、ナベヅル等のツル類が飛来している。</p> <p>魚類では諫早湾に注ぐ河川にはカジカの仲間のヤマナカミが、多良山系を源とする郡川や本明川などにはナマズの仲間のアリアケギバチが生息する。</p>
島原地域	<p>雲仙火山一帯は国立公園特別保護地区、鳥獣保護区特別保護地区等に指定されていることもあり、森林性の野鳥にとって良好な生息環境(森林)が確保されている。そのため、キビタキ、オオルリ、ホトギス等の夏鳥、シジュウカラ、ヤマガラ等の留鳥が多数生息している。また、島原半島の哺乳類ではホンダギツネ、爬虫類では産卵のため南島原市口之津町の海岸に上陸するアカウミガメが知られている。このほか、昆虫類でセミの仲間のアカエゾゼミは九州では雲仙と、大分県の久住にのみ生息している。</p>
県北地域	<p>平戸の阿値賀島で繁殖するオオミズナギドリやカラスバト、本地域の上空を渡るツルやアカハラダカ等の渡り鳥、絶滅した可能性もある平戸のシカ、さらに、平戸や生月の草原に生息するタイワンツバメシジミ等の草原性のチョウは、本地域を代表する生きものである。</p> <p>水生生物では、九十九島海域において、生きた化石と呼ばれるカブトガニ、ハクセンシオマネキ等が干潟で確認されている。</p> <p>春、川を遡る習性を利用するシロウオ漁、秋、沿岸に寄ってくるトビウオ(アゴ)を網で捕らえるアゴ漁はそれぞれの季節の風物詩となっている。</p>
五島地域	<p>キュウシュウジカが福江島西部、若松島、日島及び野崎島に多く生息するほか、以前は中通島の有川地区にしか生息していなかったイノシシが、近年、中通島全域、さらには若松島へと生息域を広げており、奈留島、久賀島、福江島においても、確認されている。</p> <p>ハチクマ等の渡り鳥が移動するメインルートとなっているほか、カラスバトやオオミズナギドリ、ウチヤマセンニュウ、ウミウ等が繁殖している。多くの渡り鳥の中継地である男女群島は、オオミズナギドリやウミネコの繁殖地としても重要な島であることから、全島が国指定鳥獣保護区となっている。小値賀町はウミウの繁殖地の南限に当たる。</p> <p>福江島には火山活動によって生じた溶岩洞窟があり、この特殊な環境に適応したドウクツミズハゼ等の魚類やイケザキアヒラタゴミムシ等の昆虫類が生息している。</p> <p>海域では、各所で造礁性サンゴやソフトコーラルが確認され、大型の回遊魚も見られることから、スキューバダイビングの観察ポイントとして注目されている。また、アカウミガメの回遊や産卵が見られるなど、対馬暖流の影響が見られる。本地域は東に五島灘、西に東シナ海を望み、周辺海域にはアジ、サバ類、ブリ、タイ、イカ類、カツオやタチウオ等が回遊するなど漁業資源に恵まれ、各所に定置網や養殖場がみられるほか「スケ漁」と呼ばれる伝統漁法が伝えられるとともに、釣りのメッカともなっている。</p>
壱岐地域	<p>砂浜ではアカウミガメの産卵が見られ、西海岸の湯本湾ではクメイシ等のサンゴの群集が確認されている。以前はカブトガニの産卵も確認されていた。</p> <p>カワヒガイ、セボシタビラ(以上、1990年代以降未確認)、カゼトゲタナゴ等純淡水魚類の豊富さと、トンガリササノハガイ、ニセマツカサガイ等の淡水性二枚貝の分布も本地域の特徴である。</p>
対馬地域	<p>アジア大陸と地理的・地史的に近い関係にあるため、ツシヤママネコをはじめ、チョウセンイタチ、チョウセンコジネズミ等、大陸系の動物が生息する。一方、ウサギ、キツネ、タヌキ等、九州本土には普通に見られる哺乳類が生息しない。</p> <p>大陸から、あるいは大陸へ、南北を行き来する渡り鳥の休息地となっており、渡りの季節には、多くの旅鳥が渡来する。9～10月頃確認できるアキマドボタル、全身に細毛が密生し、10月過ぎから鳴き始めるチョウセンケナガニイニイ等、非常に特異な生物相でも知られている。</p> <p>対馬暖流の影響により、「北限のサンゴ礁」と呼ばれるサンゴの群集が確認されている。</p>

	地域特性
	都市(農村)・産業・人口動向
長崎・西彼地域	<p>長崎市を中心として狭い土地に行政、商業、教育等の機能及び居住地が集中するため、居住環境の悪化や、著しい交通混雑など、都市環境、都市機能の低下が懸念される。</p> <p>人口は昭和60年の国勢調査以降、長崎市のベッドタウンである長与・時津町においては増加傾向であるが、その他の地域は減少傾向にある。</p> <p>本地域の基幹産業は造船業と産業用機械製造業である。また豊富な水産資源を背景として、長崎魚市場周辺を中心に水産加工業の集積が顕著であるほか、麺類、生菓子など幅広い分野の食料品製造業を営む企業が多く集積している。近年では、長崎港常盤・出島地区交流拠点用地へ大規模なコールセンターと本社機能を備えた企業が立地した事例をはじめとして、長崎市を中心にコールセンター等の情報提供サービス業やソフトウェアを営む企業の立地が見られる。</p>
県央地域	<p>世界初の海上空港長崎空港、長崎自動車道等を有し、空・陸の高速交通体系及び県内の幹線交通網の結節点であり、さらに九州新幹線長崎ルートのコース地域となっている。</p> <p>人口推移を見ると、県全体としては昭和35年をピークに減少を続けており近年は著しい減少が見られるが、県央地区については逆に増加している。平成17年における人口は約23万2千人で県総人口の15.7%、世帯数は14.8%と人口・世帯数ともに県全体の1割強を占めている。</p> <p>地域には「諫早中核工業団地」「大村ハイテクパーク」「オフィスパーク大村」等が開発された。「諫早中核工業団地」は半導体、電子機器、航空宇宙関連等の先端技術企業の進出により県央地域の産業集積拠点として発展している。また「大村ハイテクパーク」は半導体素子加工、石英ガラス製造等半導体関連企業や液晶用フィルム製造、電子機器製造等の高度技術型の企業立地が進んでいる。さらに「オフィスパーク大村」には自動車関連1次サプライヤーが立地するなど自動車関連部品や航空機部品関連の企業の立地が進んでいる。</p>
島原地域	<p>農家人口が県下で最も多く、本県の耕地面積の1/5が存在する。</p> <p>人口は昭和22年の23万2千人をピークに減少を続けており、平成17年には15万4千人となった。人口の減少に伴い、現在、雲仙市と南島原市の2市が法適用過疎地域となっている。</p> <p>本地域は県内最大の農業地帯であり、島原半島の約3割を占める農地では、北海道に次ぐ全国第2位の収穫量を誇るジャガイモの生産やイチゴ、トマト等の施設園芸が盛んである。また畜産生産額は、県全体の45%を占めているほか、半島沿岸の有明海や橘湾は豊富な魚介類に恵まれている。さらに、手延べそうめんの製造が盛んで、兵庫県に次ぐ全国第2位の生産量を誇る一大産地となっている。観光面では島原半島には雲仙天草国立公園と島原半島県立公園の二つの自然公園が指定されているが、さらに平成21年8月には「世界ジオパーク」第1号に認定された。今後はジオパークを活用した観光産業の振興に期待されることである。</p>
県北地域	<p>本県第二の人口規模である佐世保市は、県北地域の中央に位置し、軍港、商港としての佐世保港を有し、県北地区の商工業の拠点としての機能を果たしている。</p> <p>人口は昭和30年の59万8千人をピークに減少傾向にあり、平成17年度の国勢調査における人口は約42万6千人となった。人口減少の主因は一般的な過疎化の傾向とともに、県北地域の代表的な産業であった石炭産業が衰退し、炭坑が全く姿を消してしまったことである。</p> <p>本地域の基幹産業は造船業である。また「佐世保テクノパーク」では光ファイバ用石英ガラス等製造、産業用部品加工等高度技術型産業の立地が進み、「東そのぎグリーンテクノパーク」では自動車関連企業の集積および電子製造業や航空機関連部品製造業等の企業が立地している。また近年は波佐見町にデジタルカメラの製造拠点が立地し雇用の拡大につながった。このほか県北地域には陶磁器および関連業種が集積しており開窯400年の歴史を誇る波佐見焼、三川内焼が、その生産規模、伝統性から本県の代表的な地場産業となっている。観光面ではテーマパークの支援企業が決定し、観光客増加に向け新たな事業を展開している。</p>
五島地域	<p>人口は昭和35年の14万4千人から平成17年の国勢調査では約半分の7万人まで減少している。人口の減少に伴い、法適用過疎地域となっている。人口減少の主因は、高校卒業生の9割弱が就職・進学で転出していること、ならびに出生率の低下等による自然減である。</p> <p>本地域は比較的耕地に恵まれ、米、たばこ等を栽培し、農林水産業を基幹産業とする五島市と、水産業を基幹産業とする新上五島町に二分される。近年、五島市では温暖な気候を生かした茶、早だしばれいしょ、プロコリー、レタス、そらめめ、アスパラガス等の産地づくりが進められている。なお新上五島町の水産業は総生産額で県全体の水産業の14.3%を占めている。そのほか五島列島は椿油や島の良質な塩を使い、自然乾燥によって生産される五島手延べうどんの産地でもある。</p>
壱岐地域	<p>人口に占める農家人口の割合が高く、また総土地に占める耕地面積の割合が非常に高い。</p> <p>人口は、昭和30年の5万2千人をピークに平成17年の国勢調査では3万1千人と年々減少している。人口減少に伴い過疎団体の指定を受けている。</p> <p>主な島内の産業は農業、水産業、建設業、卸業、小売業、飲食業、サービス業である。農業は肉用牛、米、葉たばこを基幹作物とし、その他イチゴ、アスパラガス、メロン等を特産物としている。また壱岐は麦焼酎発祥の地といわれており、壱岐焼酎は平成7年には地理的表示の産地指定を受け、世界の銘柄に仲間入りしている。観光面では弥生時代の遺跡としては全国3か所目となる国の特別史跡に指定された「原の辻遺跡」がある。この遺跡の保存整備と同時に、貴重な歴史遺産を活かすため、壱岐市と長崎県の共同プロジェクトとして「壱岐市立一支国博物館」と「長崎県埋蔵文化財センター」が平成22年3月にオープンした。これらの整備を契機として、「古代史ざっしり壱岐」の魅力が島の内外に発信することで交流人口の拡大が期待できる。</p>
対馬地域	<p>人口は昭和35年の7万人をピークに減少の一途をたどっており、平成17年の国勢調査では3万7千人と約半分になった。人口減少に伴い、法適用過疎地域となっている。</p> <p>本地域の主幹産業は漁業である。なかでもイカ釣り漁業生産額は県全体の約51%を占めている。そのほか、恵まれた海の資源を活用して鯛やブリ等の一本釣り、延べ鰯漁、サザエ、アワビの採取、ヒジキ、海藻類の採取、沿岸での定置網漁業が盛んである。またリアス式海岸の浅茅湾を中心に養殖業が盛んで、特に真珠の生産量は県全体の50%を占めている。林業は従来から木材生産が主であったが、最近では、しいたけ栽培に変わってきている。観光については、歴史・自然・文化といった対馬独自の豊かな観光資源や韓国との国際航路が開通されたこと、またアリラン祭り、ちんぐ音楽祭、国境マラソンなどイベント開催による集客で全体的に増加傾向にある。</p>

	地域特性	
	文化財	大気環境・騒音
長崎・西彼地域	<p>長崎市は江戸時代、松前藩・対馬藩・琉球と同じく海外貿易をおこなっていた町であったため、中国やオランダからもたらされた文化の影響を受け、異国文化を漂わせる文化遺産が多数残されている。また、このような多様な文化は多くの観光客を引きつけている。一方旧外海町は、潜伏キリシタンの里として知られており、禁教令が解かれた後、大野教会堂や出津教会等の教会が建てられた。また、西海市西海町の横瀬浦は長崎開港以前に南蛮貿易港として栄えた。</p>	<p>大気環境の状況としては長崎市中心部で自動車交通による大気汚染がみられ、道路沿道で二酸化窒素が環境基準を越えることがあったが、平成17年度からは環境基準を達成している。</p> <p>長崎都市圏地域の幹線道路は、長崎市を中心とした1点集中型の道路網となっている。また環状線や副線に乏しいことから交通渋滞が慢性化しており、幹線道路沿線の騒音が環境基準を超過している区間もある。</p>
県央地域	<p>諫早市には眼鏡橋等の貴重な文化財が多数残っている。また大村市等はキリシタン大名として名高い大村氏の領内であったため、その居城である三城城跡や玖島城跡があり、キリシタン墓碑に代表されるキリシタン関連の史跡や武家屋敷のたたずまいが残っている。</p>	<p>大村、諫早の市街地と長崎市街地を結ぶ幹線道路では交通量が多く沿道の騒音も著しい。</p> <p>また、自動車交通による大気汚染がみられ、道路沿道における二酸化窒素、浮遊粒子状物質等が長崎都市圏に次いで高いが、環境基準を満足している。</p>
島原地域	<p>この地域一帯は、旧石器、縄文遺跡及び弥生時代の集落遺跡が多数残されている。また、キリシタン大名有馬氏の領地であったことから世界遺産の構成資産候補である日野江城跡、原城跡が残る。さらに、口之津港を中心とした南蛮貿易や、キリシタン墓碑に代表されるキリシタン関係の史跡が多数残されている。</p>	<p>大気環境は全般に良好である。この地域では、雲仙噴火時期とその前後に、噴火にともなう浮遊粒子状物質が高かった時期があったが、現在では、他の地域と比べても、ほぼ同程度である。</p>
県北地域	<p>古くから平戸藩の御用窯の三川内、大村藩が管理する波佐見をはじめ各地に窯跡が多く残されている。また、佐世保市は軍港都市として発展してきた歴史があり、港湾施設を中心に独特の景観が形成されている。また、平戸は、和蘭商館跡等の対外貿易関係の建造物や、城下町としての武家屋敷等の史跡が残されている。さらに平戸西海岸を中心とした地域は、かつての隠れキリシタンの伝統を受け継ぐ集落として本県で初めての重要文化的景観に選定されている。</p>	<p>佐世保市中心部と近隣都市を結ぶ国道35号等の幹線道路では、交通渋滞が慢性化しており沿道の騒音レベルも比較的高い状況である。また、佐世保市中心部で自動車交通による大気汚染がみられ、幹線道路沿いで二酸化窒素が環境基準を越えることがあったが、平成16年度以降は環境基準を達成している。</p>
五島地域	<p>五島列島には縄文、弥生時代のものと思われる貝塚が多数残っている。古代から中世にかけては、中国船の寄港地として利用されたところから、そのころに栄えた唐人町の面影が、五島市福江町の一部に残る。そのほかには五島の各地に、世界遺産の構成資産候補となっている教会群やキリシタン関係の史跡が多数残っている。また、久賀島のツバキ原生林は県指定の天然記念物である。</p>	
壱岐地域	<p>古代からの大陸交通の要路であったため、弥生時代から現在に至るまで、様々な時代の歴史を物語る遺産が多数残っている。なかでも、中国の歴史書「魏志倭人伝」に記載された「一支国(いきこく)」の王都と特定され、全国的にも注目されている国指定特別史跡「原の辻遺跡」が名高い。</p>	
対馬地域	<p>対馬は国境の島として古くから中国大陸や朝鮮半島と日本をつなぐ交通の要衝をなすとともに、防衛・侵攻の最前線基地であった。このためこれらとの関連を裏付ける遺跡や古墳等の歴史的に重要な史跡が多数残っている。また、島内産の貝(けつ)岩で屋根を葺いた石屋根倉庫は、大陸から伝わったと見られる本島の特色ある建築様式である。</p>	

	地域特性	地域別配慮指針	
	水環境	地球温暖化対策関連	地球温暖化対策関連
長崎・西彼地域	水環境は下水道整備等により徐々に改善しつつある。特に浦上川の下流域でBODはかなり改善された。西彼地域の河川は、環境基準を達成しており良好な水環境状況にある。また、閉鎖性が高く生活排水が流れ込む長崎湾や大村湾は、窒素含有量または燐含有量の環境基準及び排水基準適用海域に指定されている。	自動車排出ガスによる大気汚染が懸念されている幹線道路については、交通流の適正化、騒音防止対策等を図る。 日常的な交通渋滞の緩和を図るため、自動車交通の総量抑制や公共交通機関の利用促進を促す交通需要マネジメント政策を、県民、事業者、行政の役割分担と相互協力により進める。 造船、機械工業等の産業により蓄積された技術を環境・エネルギー産業分野に活用する。	長崎市を中心に宅地化率が最も高い地域であるため、住宅等の新築、建替時には建材等の国産材、県産材の活用や、建設廃棄物の有効利用等を積極的に推進する。
県央地域	下水道等の整備が進められており、平成18年度以降、河川水質は環境基準を達成している。有明海及び大村湾、橘湾の海域は、窒素含有量または燐含有量の排水基準適用海域となっているうえに、大村湾及び有明海の海域は全窒素及び全燐の環境基準適用水域となっている。また、本明川(諫早湾干拓調整池)については、環境基準を超過している状況にあり、「第2期諫早湾干拓調整池水辺環境の保全と創造のための行動計画」に基づき、総合的な水質保全対策を講じている。	騒音の著しい幹線道路沿道では交通流の適正化、騒音防止対策を進める。	長崎都市圏、佐世保都市圏と並んで大村市を中心に宅地化率が最も高い地域であるため、住宅等の新築、建替時には建材等の国産材、県産材の活用や、建設廃棄物の有効利用等を積極的に推進する。
島原地域	河川の水質は平成15年度に雲仙市国見町の土黒でBODが環境基準を超えている外は河川の環境基準を達成している。この地域の河川は橘湾が有明海に流れ込むが、いずれも内湾であり、閉鎖性海域のため窒素含有量または燐含有量の排水基準適用海域になっている。 海域の水質は全般に良好であり、有明海の島原沖を除きCOD値は環境基準を満たしている。		
県北地域	河川の水質は下水道整備等により、佐々川及び江迎川の水質は徐々に改善されている。また、閉鎖性が高く生活排水が流入する大村湾、佐世保湾、伊万里湾、志々伎湾の海域については、水質汚濁が懸念され、窒素含有量または燐含有量の排水基準適用海域となっている。さらに、大村湾、佐世保湾、伊万里湾の3海域については、全窒素及び全燐の環境基準適用水域となっている。	騒音の著しい幹線道路沿道では、交通流の適正化、騒音防止対策を進める。 造船、機械工業等の産業により蓄積された技術を環境・エネルギー産業分野に活用する。	佐世保市を中心に宅地化率が比較的高い地域であるため、住宅等の新築、建替時や公共施設の建設時には建材等の国産材、県産材の活用や建設廃棄物の有効利用等を積極的に推進する。
五島地域	漁業やサンゴ礁等の優れた自然、海岸景観からも海域の水環境の保全が重要であるが、福江島の福江川と鰯川で環境基準を超過することがある。	「EV・PHVタウン構想」の主要プロジェクトである「長崎EV&ITSプロジェクト」を推進し、低炭素社会の実現を目指す。	
舌岐地域	幡鉾川の水質は改善されているが、一般的に污水处理施設整備率は低い。また、郷ノ浦、半城湾、内海の海域は、窒素含有量または燐含有量の排水基準適用海域になっている。		
対馬地域	水環境は全般に良好である。廃止鉱山が上流にある下対馬の佐須川等に係わる水域はカドミウム等の有害物質の上乗せ排水基準が定められている。 多くの樹枝状の内湾を持つ三浦湾、浅茅湾の海域は、窒素含有量または燐含有量の排水基準適用海域である。	地域の環境産業の活性化、環境負荷削減技術の展開等を行う「環境実践モデル都市」に県から選定されており、自然や環境にやさしい地域資源循環型しまづりを推進する。	木材供給力の強い地域であるため、公共建築物をはじめとした建築材への地域材の積極的活用や林地残材など、これまで利用が進まなかった未利用材のバイオマス利用等有効活用を積極的に推進する。

	地域別配慮指針	
	環境への負荷の削減関連	環境への負荷の削減関連
長崎・西彼地域	<p>ばい煙発生施設が多く集中する長崎市及びその周辺域等では、引き続き事業場等の負荷削減対策等を進め、良好な大気環境の維持に努める。</p> <p>自動車排出ガスによる大気汚染が懸念されている幹線道路については、交通流の適正化、騒音防止対策等を図る。(再掲)</p> <p>長崎市、時津町など金属製品製造業、ハイテク産業が多数立地する地域においては、有害化学物質の適正な取り扱いの徹底を図る。</p>	<p>「第2期大村湾環境保全・活性化行動計画」に基づき、総合的な観点から、閉鎖性の強い大村湾の水質改善や自然環境の保全を進めるとともに、大村湾域の活性化を図る。</p>
県央地域	<p>ばい煙発生施設が多い大村市、諫早市周辺等では、引き続き事業場等の負荷削減等を進め、良好な大気環境の維持に努める。</p> <p>大村市、諫早市など金属製品製造業、ハイテク産業が多数立地する地域においては、有害化学物質の適正な取り扱いの徹底を図る。</p> <p>諫早湾周辺の有明粘土層からなる軟弱地盤地域では、地盤沈下の要因の一つとして、過剰な地下水揚水が考えられるため、地下水変動や地盤沈下に関する情報収集を行うとともに地下水の適正な利用を図る。</p> <p>長崎空港周辺地域の大村市及び諫早市における航空機騒音測定結果を取りまとめ、騒音防止対策に寄与する。</p> <p>騒音の著しい幹線道路沿道では交通流の適正化、騒音防止対策を進める。(再掲)</p>	<p>「第2期大村湾環境保全・活性化行動計画」に基づき、総合的な観点から、閉鎖性の強い大村湾の水質改善や自然環境の保全を進めるとともに、大村湾域の活性化を図る。</p> <p>諫早湾調整池の恒久的な水質保全を図るとともに、新しく生じつつある水辺環境や生態系を住民とともに育み、自然豊かな水辺空間づくりを推進する。</p>
島原地域		
県北地域	<p>ばい煙発生施設が多く集中する佐世保市周辺等では、引き続き事業場等の負荷削減等を進め、良好な大気環境の維持に努める。</p> <p>騒音の著しい幹線道路沿道では、交通流の適正化、騒音防止対策を進める。(再掲)</p> <p>佐世保市など金属製品製造業が多数立地する地域においては、引き続き大気、水質、騒音等の防止に努めるとともに、有害化学物質の適正な取り扱いの徹底を図る。</p>	<p>「第2期大村湾環境保全・活性化行動計画」に基づき、総合的な観点から、閉鎖性の強い大村湾の水質改善や自然環境の保全を進めるとともに、大村湾域の活性化を図る。</p>
五島地域		
壱岐地域		
対馬地域		

地域別配慮指針	
環境への負荷の削減関連	
長崎・西彼地域	<p>人口集積地である長崎市の水道水源となっている大村市萱瀬ダム、西海市雪浦ダム、神浦ダム、浦上水源池、西山高部水源池等をかん養する森林の保全と創出を図るとともに、長崎市で取り組まれている「節水型都市づくり」を積極的に進め、再生水の有効利用や雨水の利用、節水等を推進し、健全な水環境の確保を図る。</p> <p>生活排水や事業場排水の流入により水質汚濁が懸念されている浦上川等の流域では、下水道等の整備を進めるとともに、浄化槽の普及を図る等、早急な水環境への負荷削減を進める。特に水質汚濁が懸念される大村湾の水環境への負荷を軽減させるために、高度な処理機能を持った生活排水処理施設の必要性について検討する。また、汚泥の有効利用、処分量の削減等を進める。</p>
県央地域	<p>長崎都市圏の重要な水道水源にもなっている大村市萱瀬ダムや小ヶ倉ダム、土師野尾ダム等をかん養する森林の保全と創出を図るとともに、再生水の有効利用や雨水の利用、節水等を推進し、健全な水環境の確保を図る。</p> <p>水質汚濁が懸念されている西大川、東大川、本明川等の流域では、下水道、浄化槽等の整備を早急に進める。</p>
島原地域	<p>豊かな湧水等をかん養する森林や農地の保全と、再生水の有効利用や雨水の利用、節水等を進め、健全な水循環の確保を図る。</p> <p>島原半島においては健康被害を引き起こすおそれのある硝酸性窒素・亜硝酸性窒素による地下水汚染が半島各地で確認されていることから、「島原半島窒素負荷低減計画」に基づき、短期的、中・長期的な観点から、硝酸性窒素等の濃度が環境基準以下になるよう対策を推進する。</p> <p>下水道等の整備、浄化槽の普及を図る。</p>
県北地域	<p>長崎都市圏に次ぐ人口集積地である本地域の水道水源となっている下原ダム、江永ダム、神曾根ダム、大岩屋ダム、歌ヶ浦ダム、貯水池等をかん養する森林の保全と創出を図るとともに、佐世保市で取り組まれている「節水型都市づくり」を積極的に進め、再生水の有効利用や雨水の利用、節水等を進め、健全な水環境の確保を図る。また、地域内の35箇所の「水源の森」の整備を進める。</p> <p>水質汚濁が改善しつつある佐々川、小森川、江迎川等の流域では、下水道等の整備を早急に進めるとともに、浄化槽の普及を図る。また、下水汚泥等の有効利用による処分量の削減等を進める。</p>
五島地域	<p>島嶼部で水資源が限られていることから、内閣ダム、熊高ダム、三年ヶ浦ダムやため池、湧水等をかん養する森林や農地の保全を図るとともに、再生水の有効利用や雨水の利用、節水等を進め、健全な水環境の確保を図る。</p> <p>水質汚濁が懸念される福江島の福江川の流域を中心とし、地域の特性に応じた小規模な水循環系に配慮した生活排水の処理を推進する。また、汚泥の有効利用、処分量の削減等を進める。</p>
壱岐地域	<p>島嶼部で水資源が限られていることから、水源となっている長田ダム、勝本ダム、丸山ダム、梅ノ木ダムや、ため池、湧水等をかん養する農地等の保全と、再生水の有効利用や雨水の利用、節水等を進め、健全な水環境の確保を図る。</p> <p>幡鋒川等の流域を中心として、地域の特性に応じた生活排水処理施設を早急に整備し、水環境への負荷を軽減する。また、汚泥の有効利用、処分量の削減等を進める。</p>
対馬地域	<p>島嶼部で水資源が限られていることから、雞知ダムや湧水等をかん養する森林、棚田等の農地の保全と、再生水の有効利用や雨水の利用、節水等を進め、健全な水環境の確保を図る。</p> <p>浅茅湾の真珠養殖や漁業資源への影響等を考慮して、下水道、浄化槽等の整備により、生活排水の処理水準の向上を図る。</p>

地域別配慮指針	
環境への負荷の削減関連	
長崎・西彼地域	温州みかん、びわ、いちご等の園芸産地を多く有しており、化学肥料の施用や化学合成農薬の使用を軽減させる効果が高い技術を導入して環境保全型農業を推進する。
県央地域	諫早湾周辺において、局所施肥、肥効調節型肥料等の施肥技術や、緑肥作物によるカバークロープ利用技術等を導入して環境保全型農業を推進する。
島原地域	島原半島全域では、硝酸態窒素による地下水等の汚染が課題であり、農業面からの負荷を低減するために「島原半島窒素負荷低減計画」に基づいた取り組みを積極的に推進し、いさはや新池周辺地域では、適正量の施肥・畑地からの土壌流出防止対策・水田からの濁水管理を徹底することにより、水質の改善を図る。また、施肥対策と併せて、農薬の適正使用と農薬使用低減に取り組み、有機農業や特別栽培への取り組み拡大を積極的に進める。
県北地域	化学肥料や農薬等の使用量の削減、土づくり、生物的防除等、環境保全型農業の実践・普及を推進する。
五島地域	管内の栽培品目全般に対し、土づくりによる減化学肥料や適正な施肥管理および総合的な防除対策の導入による減農薬を段階的に推進し、環境への負担軽減を図る。
壱岐地域	土づくりと化学肥料・化学農薬の使用低減を行う生産方式を導入する計画を立てた農業者(エコファーマー)を確保・育成し環境にやさしい農業を実践していく。 なお、幡鉾川流域の大型基盤整備地帯を中心に化学肥料・化学合成農薬を慣行の5割以上低減する特別栽培に取り組んでいる。
対馬地域	対馬市には、ツシヤママネコをはじめ貴重な動植物が多く、今も自然と調和した農業がおこなわれている。また、対州そばは化学肥料、農薬等の使用量を削減した栽培が行われており、そばの花はニホンミツバチの蜜源としても利用されている。今後も、対馬の豊かな資源を持続させるためより環境に配慮した農業の推進を図る。

	地域別配慮指針	
	循環型社会形成関連	循環型社会形成関連
長崎・西彼地域	<p>循環型社会の形成を推進し、焼却処理や最終処分を行うごみの削減に努めるとともに、長崎県ごみ処理広域化計画(H21.7改訂)に基づく取り組みを推進し、ダイオキシン類の排出削減を図り、生活環境の保全や効率的な廃棄物処理の実現を目指す。</p> <p>産業廃棄物処理施設に係る立地基準を定め、水源の保護、自然環境の保全、文化財の保護等に配慮する。</p>	<p>外洋に面する海岸は、海岸漂着物が多い地域であり、景観、自然環境、水産資源、観光等への影響が深刻な問題となっているため、長崎県海岸漂着物対策推進計画に基づく取り組みを推進することで、海岸の良好な景観、多様な生態系の確保、生活衛生の向上、水産資源の保全等総合的な海岸の環境の保全を目指す。</p>
県央地域	<p>循環型社会の形成を推進し、焼却処理や最終処分を行うごみの削減に努めるとともに、ダイオキシン類の排出削減を図り、生活環境の保全や効率的な廃棄物処理の実現を目指す。</p> <p>産業廃棄物処理施設に係る立地基準を定め、水源の保護、自然環境の保全、文化財の保護等に配慮する。</p>	
島原地域	<p>循環型社会の形成を推進し、焼却処理や最終処分を行うごみの削減に努めるとともに、ダイオキシン類の排出削減を図り、生活環境の保全や効率的な廃棄物処理の実現を目指す。</p> <p>産業廃棄物処理施設に係る立地基準を定め、水源の保護、自然環境の保全、文化財の保護等に配慮する。</p>	
県北地域	<p>循環型社会の形成を推進し、焼却処理や最終処分を行うごみの削減に努めるとともに、長崎県ごみ処理広域化計画(H21.7改訂)に基づく取り組みを推進し、ダイオキシン類の排出削減を図り、生活環境の保全や効率的な廃棄物処理の実現を目指す。</p> <p>産業廃棄物処理施設に係る立地基準を定め、水源の保護、自然環境の保全、文化財の保護等に配慮する。</p>	<p>外洋に面する海岸は、海岸漂着物が多い地域であり、景観、自然環境、水産資源、観光等への影響が深刻な問題となっているため、長崎県海岸漂着物対策推進計画に基づく取り組みを推進することで、海岸の良好な景観、多様な生態系の確保、生活衛生の向上、水産資源の保全等総合的な海岸の環境の保全を目指す。</p>
五島地域	<p>循環型社会の形成を推進し、焼却処理や最終処分を行うごみの削減に努めるとともに、長崎県ごみ処理広域化計画(H21.7改訂)に基づく取り組みを推進し、ダイオキシン類の排出削減を図り、生活環境の保全や効率的な廃棄物処理の実現を目指す。</p> <p>産業廃棄物処理施設に係る立地基準を定め、水源の保護、自然環境の保全、文化財の保護等に配慮する。</p>	<p>海岸漂着物が多い地域であり、景観、自然環境、水産資源、観光等への影響が深刻な問題となっているため、長崎県海岸漂着物対策推進計画に基づく取り組みを推進することで、海岸の良好な景観、多様な生態系の確保、生活衛生の向上、水産資源の保全等総合的な海岸の環境の保全を目指す。</p>
壱岐地域	<p>循環型社会の形成を推進し、焼却処理や最終処分を行うごみの削減に努めるとともに、長崎県ごみ処理広域化計画(H21.7改訂)に基づく取り組みを推進し、ダイオキシン類の排出削減を図り、生活環境の保全や効率的な廃棄物処理の実現を目指す。</p> <p>産業廃棄物処理施設に係る立地基準を定め、水源の保護、自然環境の保全、文化財の保護等に配慮する。</p>	<p>海岸漂着物が多い地域であり、景観、自然環境、水産資源、観光等への影響が深刻な問題となっているため、長崎県海岸漂着物対策推進計画に基づく取り組みを推進することで、海岸の良好な景観、多様な生態系の確保、生活衛生の向上、水産資源の保全等総合的な海岸の環境の保全を目指す。</p>
対馬地域	<p>循環型社会の形成を推進し、焼却処理や最終処分を行うごみの削減に努めるとともに、ダイオキシン類の排出削減を図り、生活環境の保全や効率的な廃棄物処理の実現を目指す。</p> <p>産業廃棄物処理施設に係る立地基準を定め、水源の保護、自然環境の保全、文化財の保護等に配慮する。</p>	<p>海岸漂着物が多い地域であり、景観、自然環境、水産資源、観光等への影響が深刻な問題となっているため、長崎県海岸漂着物対策推進計画に基づく取り組みを推進することで、海岸の良好な景観、多様な生態系の確保、生活衛生の向上、水産資源の保全等総合的な海岸の環境の保全を目指す。</p>

	地域別配慮指針	
	自然との共生関連	自然との共生関連
長崎・西彼地域	<p>魚類や貝類養殖が行われている三和町蚊焼や橘湾西部水域等、既に持続的養殖生産確保計画を策定している水域では、計画に基づく適正養殖指導を行い、漁場環境の維持・改善に努める。また、今後は、当該計画未策定の養殖水域における策定指導を行う。</p> <p>赤潮、油濁の発生監視活動を漁業者と連携して実施するとともに、藻場の造成、漁場環境の保全を図る。</p> <p>良好な漁場環境を維持し、良質な養殖水産物を生産するために「漁場改善計画」の策定と実践を推進する。</p>	<p>西彼地域は県内でも比較的豊かな森林を残す半島であるため、地域の特性に応じて育成天然林施業、複層林施業、長伐期施業等を行うことにより、森林の環境保全機能の維持・向上を図りながら県民の森を活動の場の中核として、豊かな森林から川を通して海へ繋がるふれあいのネットワークの形成を図る。</p>
県央地域	<p>赤潮、油濁の発生監視活動を漁業者と連携して実施するとともに、藻場の造成、漁場環境の保全を図る。</p> <p>良好な漁場環境を維持し、良質な養殖水産物を生産するために「漁場改善計画」の策定と実践を推進する。</p>	<p>土地生産力が高く、生立する樹木の形質も良く、県下では最も先進的な林業地帯となっていることから、地域の特性に応じた適切な施業を行うことにより、森林の環境保全機能の維持・向上を図る。</p>
島原地域	<p>ノリ養殖が行われている有明海水域、魚類養殖が行われている橘湾東部水域等、既に持続的養殖生産確保計画を策定している水域では、計画に基づく適正養殖指導を行い、漁場環境の維持・改善に努める。また、今後は、当該計画未策定の養殖水域における策定指導を行う。</p> <p>赤潮、油濁の発生監視活動を漁業者と連携して実施するとともに、藻場の造成、漁場環境の保全を図る。</p> <p>良好な漁場環境を維持し、良質な養殖水産物を生産するために「漁場改善計画」の策定と実践を推進する。</p>	<p>雲仙普賢岳噴火により被害を受けた雲仙岳東斜面や普賢岳周辺地域については、治山防災のために樹林化や適切な治山ダムを設置する。</p> <p>雲仙山頂部の自然林等の貴重な植生を有する森林の適切な保全を図るとともに、山麓においては環境保全型の林業を進め、二酸化炭素の吸収源である森林を育成する。</p>
県北地域	<p>魚類や真珠養殖が行われている佐世保市鹿町町や伊万里湾水域等、既に持続的養殖生産確保計画を策定している水域では、計画に基づく適正養殖指導を行い、漁場環境の維持・改善に努める。また、今後は、当該計画未策定の養殖水域における策定指導を行う。</p> <p>赤潮、油濁の発生監視活動を漁業者と連携して実施するとともに、藻場の造成、漁場環境の保全を図る。</p> <p>良好な漁場環境を維持し、良質な養殖水産物を生産するために「漁場改善計画」の策定と実践を推進する。</p>	<p>県内でも森林面積が対馬に次いで多い地域であり、北松県立公園の中核である国見山の貴重なアカガンの原生林と周辺森林の山麓地域等の特性に応じて育成天然林施業、複層林施業、長伐期施業等を行うことにより、森林の環境保全機能の維持・向上を図る。</p> <p>県内でも比較的豊かな森林を有しており、二酸化炭素の吸収源としての森林の適切な保全、育成を図る。</p>
五島地域	<p>魚類や貝類養殖が行われている久賀湾や若松瀬戸水域等、既に持続的養殖生産確保計画を策定している水域では、計画に基づく適正養殖指導を行い、漁場環境の維持・改善に努める。また、今後は、当該計画未策定の養殖水域における策定指導を行う。</p> <p>赤潮、油濁の発生監視活動を漁業者と連携して実施するとともに、藻場の造成、漁場環境の保全を図る。</p> <p>良好な漁場環境を維持し、良質な養殖水産物を生産するために「漁場改善計画」の策定と実践を推進する。</p>	<p>森林が持つ多様な機能が発揮されるよう間伐による適正な森林管理と作業道の整備を行い、持続的な森林資源の育成と多様な森林づくりを進める。</p>
壱岐地域	<p>魚類やカキ養殖が行われている湯ノ本湾水域では、既に持続的養殖生産確保計画を策定しており、計画に基づく適正養殖指導を行い、漁場環境の維持・改善に努める。また、今後は、当該計画未策定の養殖水域における策定指導を行う。</p> <p>赤潮、油濁の発生監視活動を漁業者と連携して実施するとともに、藻場の造成、漁場環境の保全を図る。</p> <p>良好な漁場環境を維持し、良質な養殖水産物を生産するために「漁場改善計画」の策定と実践を推進する。</p>	
対馬地域	<p>魚類や貝類養殖が行われている浅茅湾や三浦湾水域等、既に持続的養殖生産確保計画を策定した水域では、計画に基づく適正養殖指導を行い、漁場環境の維持・改善に努める。また、今後は、当該計画未策定の養殖水域における策定指導を行う。</p> <p>赤潮、油濁の発生監視活動を漁業者と連携して実施するとともに、藻場の造成、漁場環境の保全を図る。</p> <p>良好な漁場環境を維持し、良質な養殖水産物を生産するために「漁場改善計画」の策定と実践を推進する。</p>	<p>県内で最も森林面積が多い地域であり、大陸系や対馬固有の動植物が生息・生育しており、地域の特性に応じ育成天然林施業、複層林施業、長伐期施業等を取り入れ、森林の環境保全機能の維持・向上に努める。また、採算性の悪化等で管理が放棄されて荒れた森林については適正な管理を図る。</p> <p>島の9割が森林で覆われ、県内で最も森林率が高く、二酸化炭素の吸収源としての森林の適切な保全、育成を図る。</p>

地域別配慮指針	
自然との共生関連	
長崎・西彼地域	<p>県立自然公園等の身近な自然とのふれあいの場における利用施設の整備は、自然とのふれあいや保全活動の拠点となり、交流人口の増加や地域の活性化を図る効果が期待される。自然環境の保全や生き物とのつながりの重要性を理解するエコツーリズム等の体験型観光や環境教育を推進する。</p> <p>県内でも比較的豊かな森林を残す西彼半島では、二酸化炭素の吸収源であり飲み水を育む森林を育成する環境保全型の林業を進めるとともに、グリーンツーリズム等の活用により、長崎、佐世保市をはじめとした都市圏の住民を中心に、県民自らが水源を涵養する森林や海を育む森を守り育てるしくみづくりや活動の場を提供する。</p> <p>長崎市街地では災害の防止に配慮しながら、親水性のある都市河川や海辺との出会いのある港の形成により、水辺とのふれあい空間づくりを積極的に進める。</p> <p>長崎市周辺は平地が少なく丘陵山地に囲まれており、坂の多い斜面住宅地等を形成している地域では新たな緑地スペースを確保することが困難である。都市の骨格となる緑を保全するとともに、市街地の緑が少ない地域では、緑の拠点となる公園の整備、公共施設や民間施設の緑化等により身近な緑の創出に努める。</p>
県央地域	<p>多良岳県立公園等の身近な自然とのふれあいの場における利用施設の整備は、自然とのふれあいや保全活動の拠点となり、交流人口の増加や地域の活性化を図る効果が期待される。閉鎖性水域である大村湾では、水質浄化の活動や水辺での自然観察会等を行うとともに、里地里山でのグリーンツーリズムやエコツーリズム等の体験型観光を推進する。</p> <p>多良岳山麓の森林や棚田の保全を図るためグリーンツーリズム等の活用により、県民が自らの手により森林や棚田を守り育てるしくみづくりを進める。</p> <p>自然海岸や藻場、河川等の自然の水辺の保全に努め、多様な水辺とのふれあいが確保された生活空間づくりを行う。</p> <p>都市の骨格となる緑地や歴史的な緑の保全及び、公園緑地等の身近な緑が少ない市街地では、公共施設や民間施設の緑化、公園や緑地の保全、整備等により、身近な緑の創出に努める。</p>
島原地域	<p>自然公園やジオパークにおける利用施設の整備は、自然とのふれあいや保全活動の拠点となり、交流人口の増加や地域の活性化を図る効果が期待される。自然環境の保全や生き物とのつながりの重要性を理解するエコツーリズムやジオツーリズム等の体験型観光や環境教育を推進する。</p> <p>基幹産業である農林業を活用した体験ツアーや体験民泊等のグリーンツーリズムを推進し、農山村への愛着と農林業への理解を促すと共に、森林や棚田等の自然環境を守り育てる活動を支援する。</p> <p>自然海岸や藻場、河川等の自然の水辺の保全に努め、多様な水辺とのふれあいが確保された生活空間づくりを行う。</p> <p>市街地の緑が少ない地域では、公共施設や民間施設の緑化等により身近な緑の創出を図るとともに、湧水や湖沼等の水辺を活用し、うるおいのある緑豊かな生活空間づくりに努める。</p>
県北地域	<p>西海国立公園、玄海国定公園、大村湾県立公園等自然とのふれあいの場における利用施設の整備は、自然とのふれあいや保全活動の拠点となり、交流人口の増加や地域の活性化を図る効果が期待される。さらに世界文化遺産登録を目指す教会群や自然資源などの興味ポイントを歩いて巡る九州自然歩道を整備する。また、自然環境の保全や生き物とのつながりの重要性を理解するエコツーリズム等の体験型観光や環境教育を推進する。</p> <p>グリーンツーリズムや都市住民の協力による農林水産業の活性化と森林等の自然環境資源の健全な育成を図る。また、環境保護団体の育成等を行い、県民自らが環境保護に取り組むシステムを構築する。</p> <p>自然海岸や藻場、河川等の自然の水辺の保全に努め、多様な水辺とのふれあいが確保された生活空間づくりを行う。</p> <p>市街地の緑が少ない地域では、樹林地の保全及び公共施設や民間施設の緑化、健康・福祉・安全性の向上につながる緑の保全、整備等により身近な緑の創出に努める。</p>
五島地域	<p>西海国立公園の自然とのふれあいの場における利用施設の整備は、自然とのふれあいや保全活動の拠点となり、交流人口の増加や地域の活性化を図る効果が期待される。さらに世界文化遺産登録を目指す教会群や自然資源などの興味ポイントを歩いて巡る九州自然歩道を整備する。また、自然環境の保全や生き物とのつながりの重要性を理解するエコツーリズムやブルーツーリズム等の体験型観光や環境教育を推進する。</p> <p>グリーンツーリズム等の推進により体験型の環境学習の場を形成する。</p> <p>海洋性レクリエーションや地域住民の憩いの場、伝統行事、漁業活動に利用されている自然資源を保全するとともに、港湾、漁港、河川等と一体となった豊でうるおいのある水辺のふれあい空間づくりを進める。</p>
壱岐地域	<p>壱岐対馬国定公園等の自然とのふれあいの場における利用施設の整備は、自然とのふれあいや保全活動の拠点となり、交流人口の増加や地域の活性化を図る効果が期待される。自然環境の保全や文化的史跡の重要性を理解するエコツーリズムやブルーツーリズム等の体験型観光や環境教育を推進する。</p> <p>壱岐ならではの農林業・漁業・食等の体験プログラムの整備を行い自然体験等を活かした教育旅行の誘致に取り組み交流人口の拡大と島の活性化を図っていく。</p> <p>自然海岸や藻場、河川等の自然の水辺の保全に努め、多様な水辺とのふれあいが確保された生活空間づくりを行う。</p>
対馬地域	<p>壱岐対馬国定公園等の自然とのふれあいの場における利用施設の整備は、自然とのふれあいや保全活動の拠点となり、交流人口の増加や地域の活性化を図る効果が期待される。また、ツシヤママネコに代表される対馬の特徴的な自然環境の保全や生き物とのつながりの重要性を理解するエコツーリズム等の体験型観光や環境教育を推進する。</p> <p>対馬の豊かな自然の中で、環境を守りつつ持続的な生産活動を行う農山漁村での各種体験の場を充実拡大することで、農山漁村の資源を見直し、自然環境の保全に対する心を多くの人に高めてもらえるよう受入体制の整備を行う。</p> <p>河川等の自然の水辺環境を、小動物の生息環境として保全するとともに、集落周辺においては水辺とのふれあいの空間づくりを進める。</p>

	地域別配慮指針	
	自然との共生関連	パートナーシップ
長崎・西彼地域	野母半島県立公園及び西彼杵半島県立公園に指定されている山岳や海岸の自然環境・景観の保全に努める。 希少野生動植物種保存地域や久良木湿原自然環境保全地域における希少野生動植物種の保全に配慮する。 レッドデータブック掲載種をはじめとする希少野生動植物の生息・生育環境を保全するよう配慮する。	長崎市に県全体の環境情報や環境教育のメニュー等の情報を提供する中核的拠点施設の整備を進める。 閉鎖性が高く水質汚濁の影響が顕著な大村湾については、環境に配慮したルールづくりや実践活動を進める。
県央地域	多良岳県立公園に指定されている多良山系における自然環境・景観の保全に努める。 希少野生動植物種保存地域における希少野生動植物種の保全に配慮する。 レッドデータブック掲載種をはじめとする希少野生動植物の生息・生育環境を保全するよう配慮する。	県環境保健研究センターを拠点に大村湾や諫早湾を活用し、自然観察会や体験学習等による環境教育を進める。 閉鎖性が高く水質汚濁の影響が顕著な大村湾については、環境に配慮したルールづくりや実践活動を進める。
島原地域	雲仙天草国立公園及び島原半島県立公園に指定されている山岳や海岸の自然環境・景観の保全に努める。 希少野生動植物種保存地域における希少野生動植物種の保全に配慮する。 レッドデータブック掲載種をはじめとする希少野生動植物の生息・生育環境を保全するよう配慮する。	島原半島ジオパークの取り組みと連動して、雲仙天草国立公園を中心とする恵まれた自然を生かした環境教育・環境学習を進める。 山裾の緑の丘陵地帯や、豊かな湧水の保全を中心とした環境に配慮したルールづくりや実践活動を推進する。
県北地域	西海国立公園、玄海国立公園及び北松県立公園等に指定されている山岳や海岸の自然環境・景観の保全に努める。 希少野生動植物種保存地域や虚空蔵山自然環境保全地域における希少野生動植物種の保全に配慮する。 レッドデータブック掲載種をはじめとする希少野生動植物の生息・生育環境を保全するよう配慮する。	渡り鳥の定期的な飛来地である佐世保市の江盾池、佐々川や相浦川等の河口干潟、早岐瀬戸の干潟などについて、自然とのふれあいの場、環境教育の場として多様な利用を図る。 閉鎖性の高い大村湾や佐世保湾、伊万里湾、これに流入する都市河川の流域については、環境に配慮したルールづくりや実践活動を進める。
五島地域	西海国立公園に指定されている自然海岸や特異な地形・地質の保全に努める。 希少野生動植物種保存地域及び長崎県自然環境保全地域(津和崎海岸、高峰西海岸、大瀬良東海岸、矢堅崎西海岸、舅ヶ島、奈木崎海岸、末津島・前島、田ノ浦海岸、燈瀬海岸)における希少野生動植物種の保全に配慮する。 レッドデータブック掲載種をはじめとする希少野生動植物の生息・生育環境を保全するよう配慮する。	五島列島におけるそれぞれの島々との連携を図りながら、環境に配慮したルールづくりや実践活動のしくみづくりを進める。 EV&ITSプロジェクトで電気自動車に搭載する情報として、五島の自然や、ごみの投げ捨て等の禁止地区に関する情報を盛り込み、環境保全への理解と協力の増進を図る。
壱岐地域	壱岐対馬国定公園に指定されている自然環境・景観の保全に努める。 希少野生動植物種保存地域における希少野生動植物種の保全に配慮する。 レッドデータブック掲載種をはじめとする希少野生動植物の生息・生育環境を保全するよう配慮する。	壱岐の自然と共生した先人の知恵に着目しながら、農業、漁業分野との連携を図った「海彦・山彦」の活用とともに、体験型の環境学習の場を形成する。
対馬地域	壱岐対馬国定公園に指定されている山岳や海岸の自然環境・景観の保全に努める。 希少野生動植物種保存地域及び長崎県自然環境保全地域(茂木海岸、合歓ノ木、青海海岸、妙見、子ソ崎)における希少野生動植物種の保全に配慮する。 レッドデータブック掲載種をはじめとする希少野生動植物の生息・生育環境を保全するよう配慮する。	海と豊かな森林資源等の恵まれた豊かな自然を活かし、山から海までのつながりに着目した環境教育・環境学習を進める。 上対馬、下対馬におけるそれぞれの島々との連携を図りながら、環境に配慮したルールづくりや実践活動を進める。